

FAR,

FUR

はじめに

私は物心ついた頃から様々な動物と暮らしてきた経験から、

動物愛護に関する研究・制作をしたいと考えました。

世界中では動物の殺処分や動物実験など、

動物福祉に関して様々な問題を抱えています。

その中でも、人間の娯楽（ファッション）として

多くの命が奪われている”毛皮問題”について着目し、

作品の制作に取り組みました。

C O N T E N T S

o1 / 毛皮について

o4 毛皮とは？

o6 毛皮産業の推移

o8 動物性素材

o2 / 毛皮産業の賛否

12 毛皮賛成派

16 毛皮反対派

o3 / 毛皮動物図鑑

22 ミンク

23 キタリス

24 シロウサギ

25 ニホンジカ

26 ヒグマ

27 ボブキャット

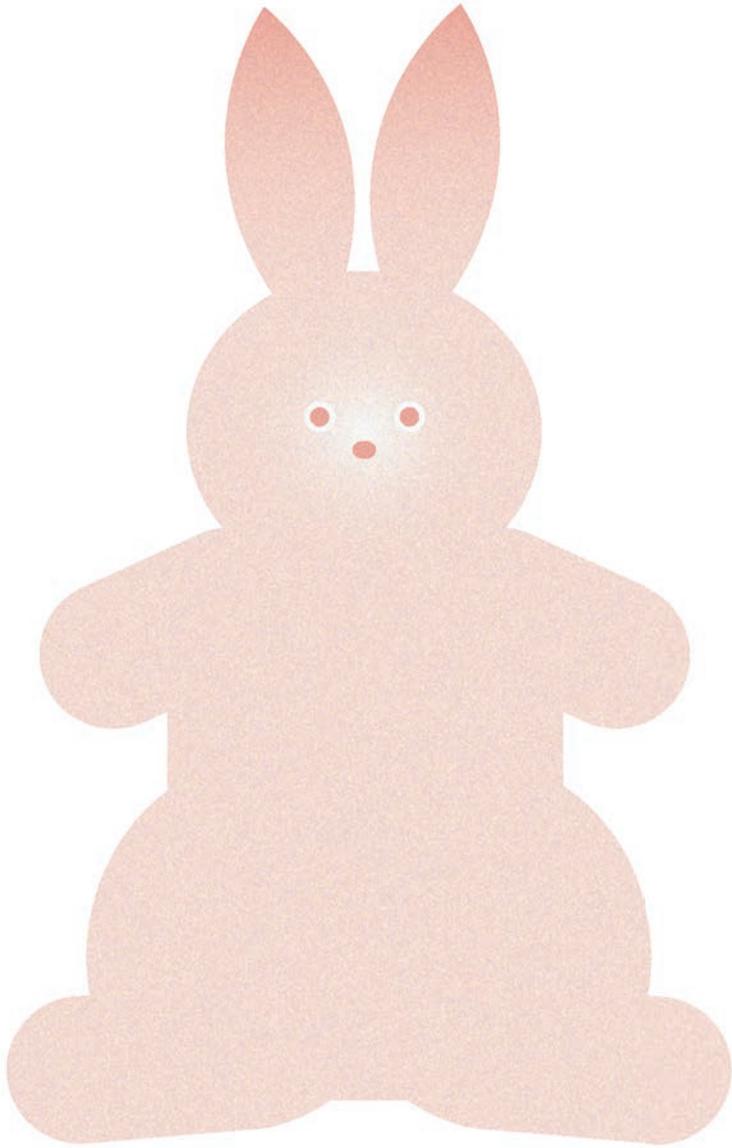
28 キツネ

29 タヌキ

01



毛皮について



What is fur ?



毛皮とは？

What is fur?

毛皮

(けがわ、英：fur)

毛 皮とは、体毛がついたままの獣皮のこと、

旧石器時代から防寒具として使われてきた。

保温性、吸湿性、通気性に優れているため、特に寒冷な気候の

北ヨーロッパなどでは、毛皮は生活に欠かせない必需品であった。

しかし、過去には毛皮目的の野生動物乱獲により絶滅に瀕した動物もいる。

現在でも毛皮についての論争は絶えず、賛成派、反対派それぞれ互いに意

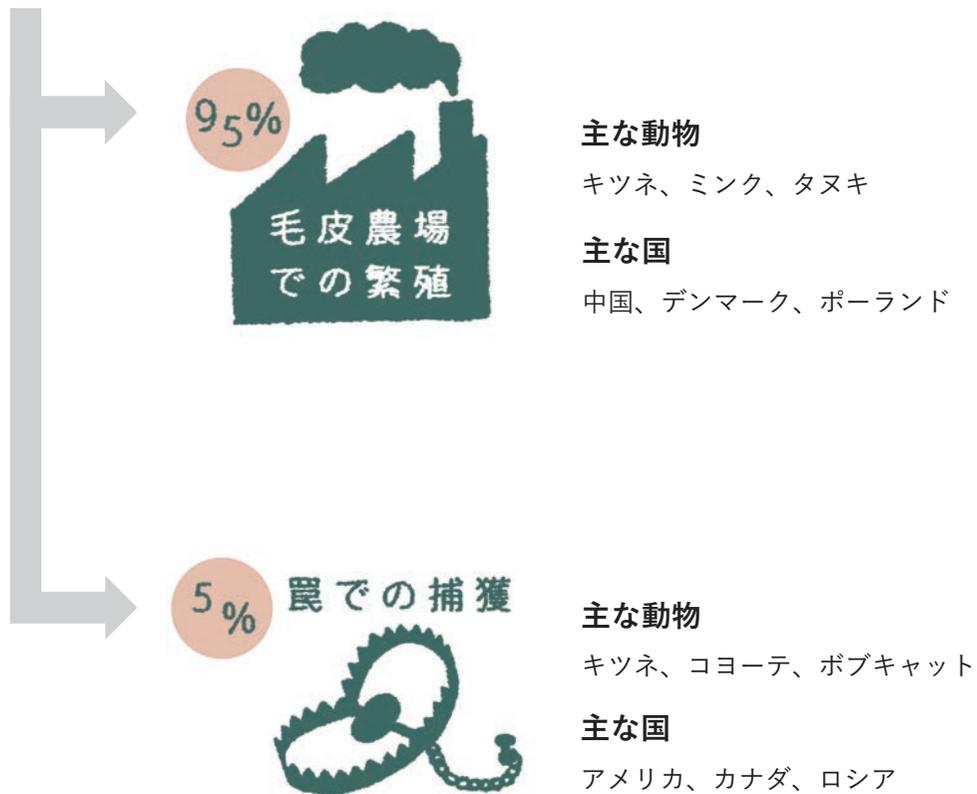
見を主張している。

毛皮産業の推移

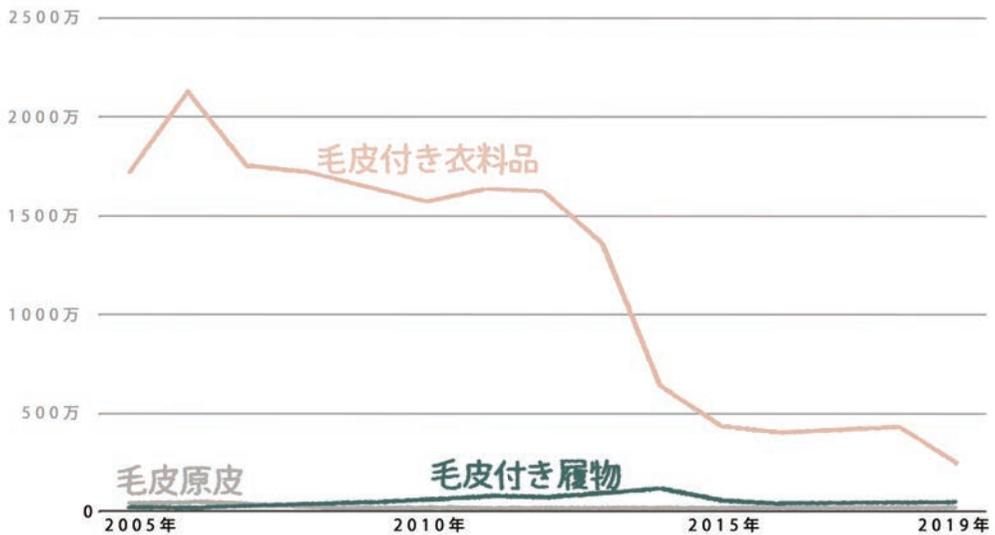
The transition
of the fur industry.

毛皮産業とは、衣類やアクセサリーなどに使用するために動物の毛皮を採取し、販売する産業である。

昔よりは減っているが、現在も世界では毎年1億頭以上の動物が毛皮に利用されている。毛皮に利用する動物の確保には、毛皮農場で繁殖させる方法と野生動物を罠で捕獲する方法の2つがある。



日本の毛皮製品輸入量（財務省貿易統計）



2000年代の日本

フード部分に毛皮を使用したコートなどが流行り、毛皮付き衣料品の輸入量がピークに達した2006年には1年間で2千万点以上もの毛皮付き衣料品が購入された。

2006年頃公開した中国毛皮産業の実態を刻銘に映した調査映像をきっかけに、毛皮反対キャンペーンやデモ行進を行い、日本での毛皮輸入量は減少してきている。

現代の日本

キャンペーンを開始した当時から比較すると、相当減少したが、それでも動物の犠牲数は多い。

2019年の1年間で、未だに100万頭以上の動物たちが日本の消費のために犠牲になっている。

動物性素材

Animal material

動物性素材は、肌触りが良いだけでなく、断熱材として機能することから、暑さや寒さから体を保護するためや、強い直射日光を遮断するためにも有効である。

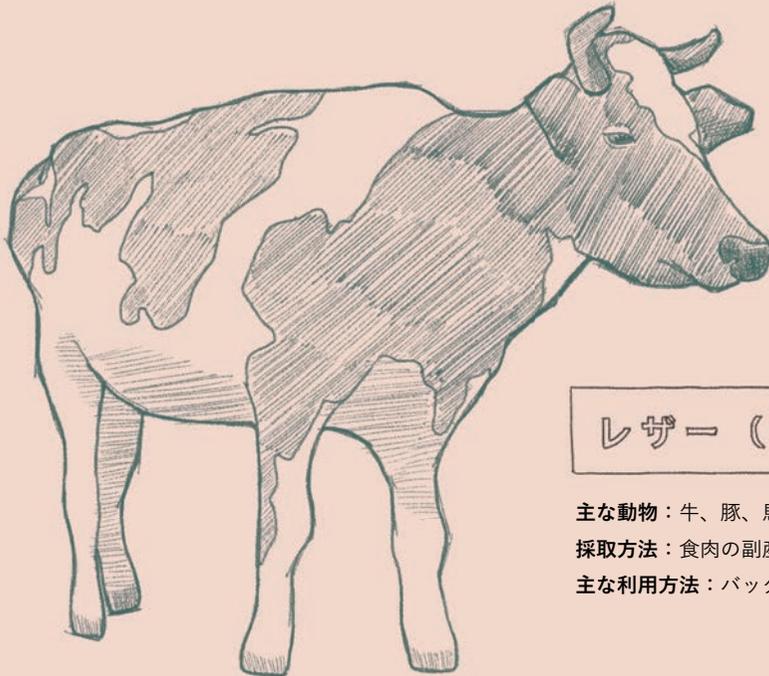
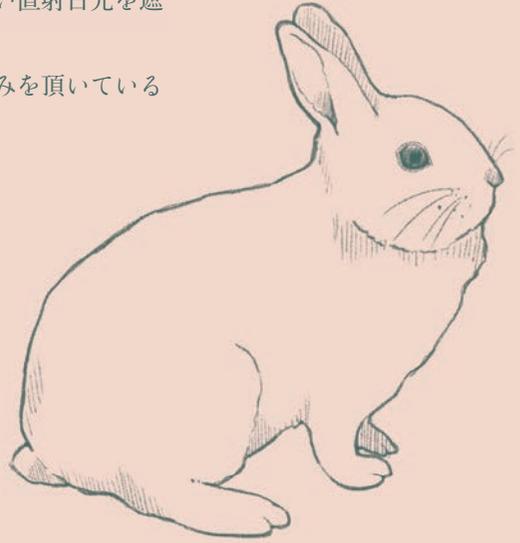
しかしそれを利用するにあたって、動物たちから恵みを頂いていることを理解しておかなければならない。

リアルファー（毛皮）

主な動物：ミンク、キツネ、タヌキ、ウサギ、コヨーテ

採取方法：毛皮農場で養殖後生きたまま毛皮を剥ぐ

主な利用方法：コート、マフラー、バッグ、靴



レザー（皮革）

主な動物：牛、豚、馬、クロコダイル、ダチョウ

採取方法：食肉の副産物・工場で養殖後生きたまま皮を剥ぐ

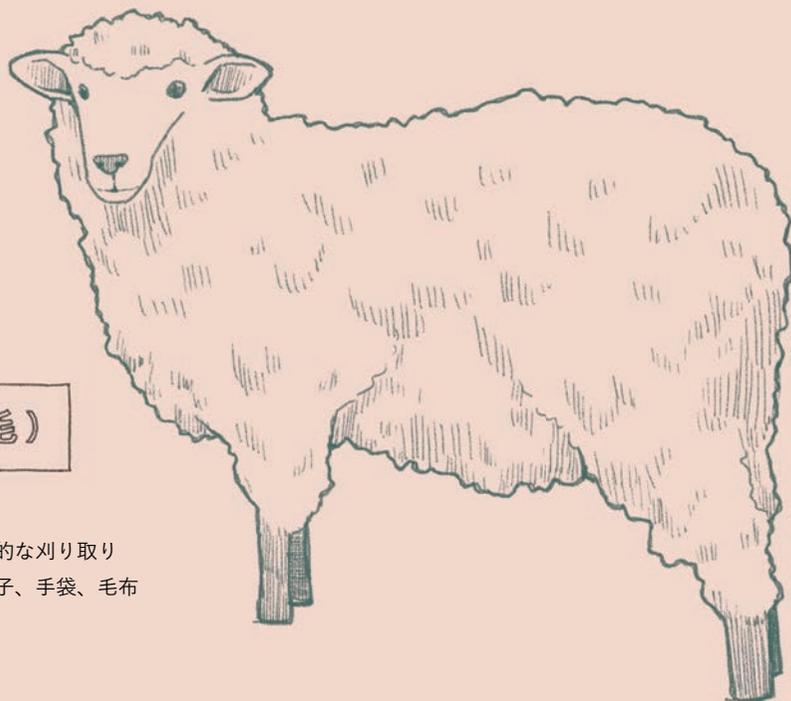
主な利用方法：バッグ、財布、靴、ジャケット、ベルト

ウール（羊毛）

主な動物：羊、アルパカ

採取方法：生きたまま定期的な刈り取り

主な利用方法：ニット、帽子、手袋、毛布



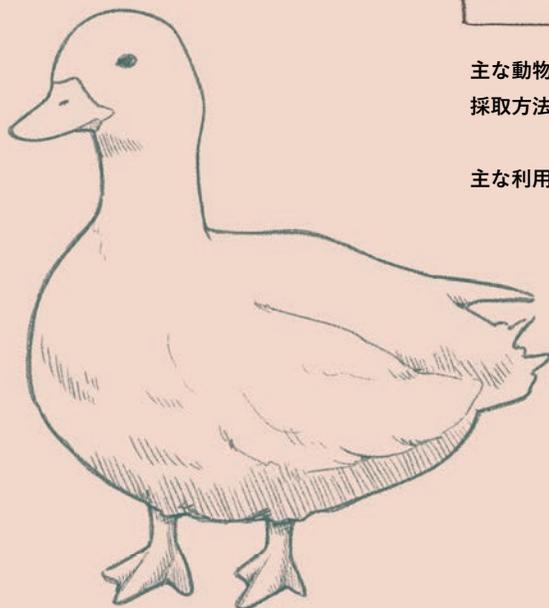
ダウン・フェザー（羽毛）

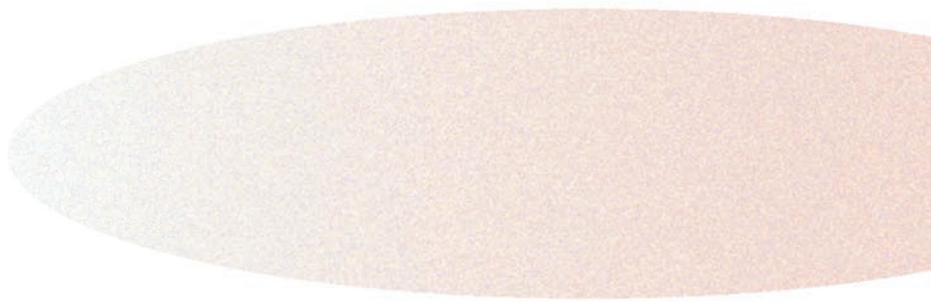
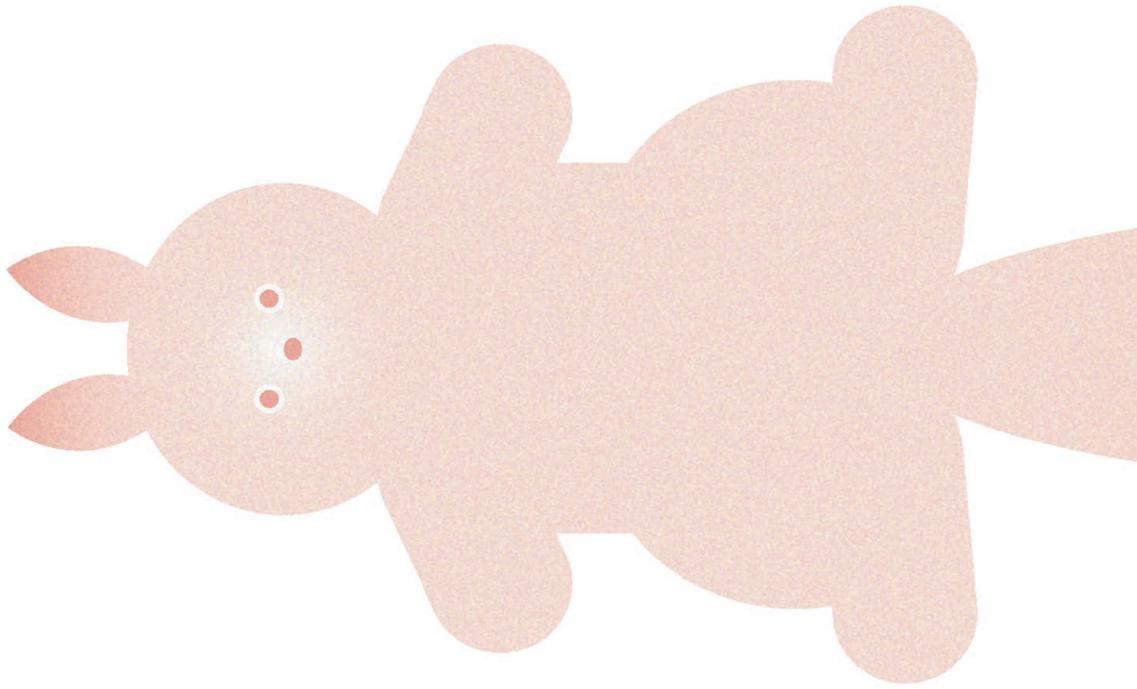
主な動物：ガチョウ、アヒル、カモ

採取方法：換羽期に自然に抜け落ちた羽毛を採取・

食肉の副産物・生きたまま定期的にもしり取る

主な利用方法：布団や枕などの寝具、ジャケット

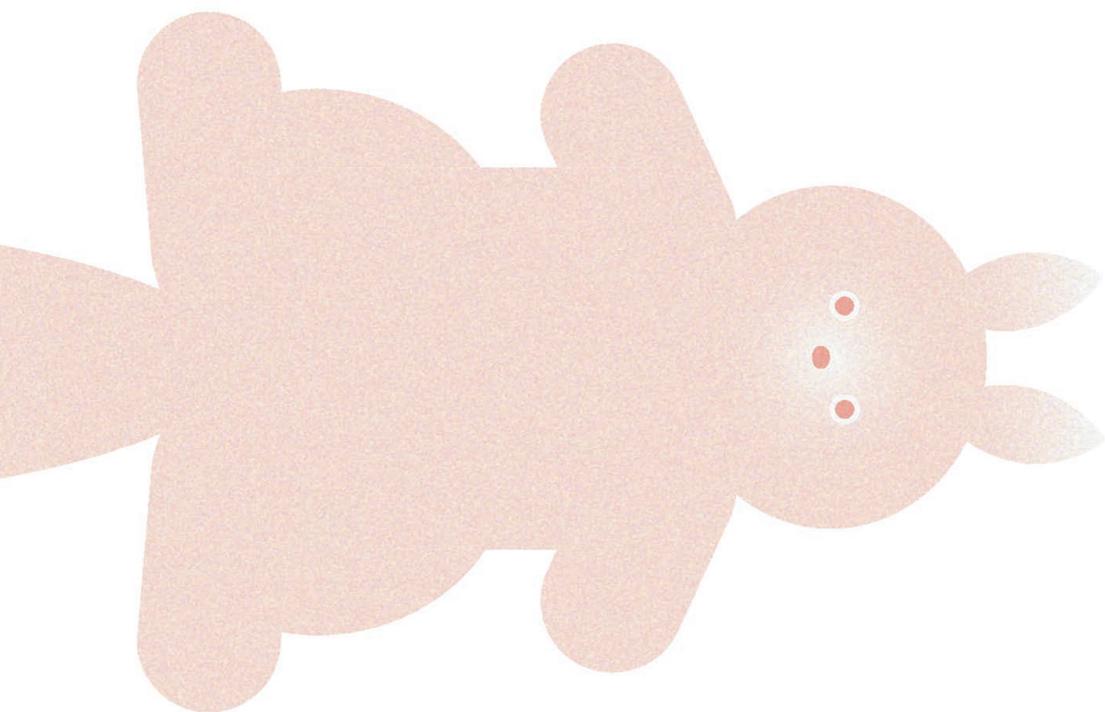
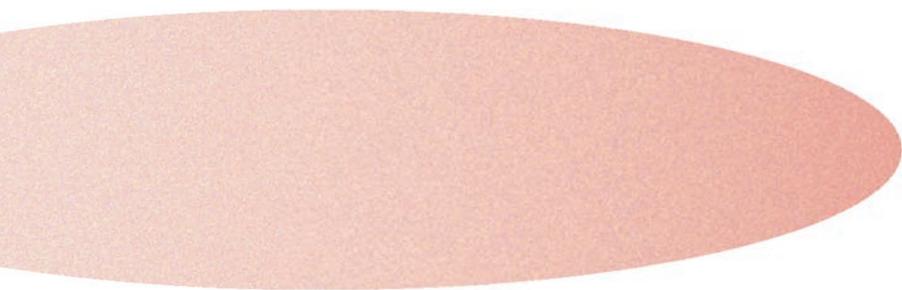




02



毛皮産業の賛否





リアルファーに対しての賛成意見について

リアルファーを活用している人々は大きく分けて2種類に分けられる。

1つはマタギやイヌイットなどの、狩猟を生業にしている人々や民族。

こちらは伝統文化として野生動物たちと共存しているため、自分たちにとって必要最低限の命をいただき、肉や皮など余す事なく大切に活用している。文化が発達する前の、本来の人間と動物の姿とも言える。

もう1つは毛皮農場や、ファッションやブランドとして楽しむ人々。

人工的に量産される布よりも、リアルファーは希少価値が高く見た目も美しいため、セレブの間ではファッションやコレクションとして流通している。そして、毛皮をビジネスとして扱う毛皮農場の中には、卑劣な飼育環境や動物の命を軽んじているものが多い。

同じリアルファーを活用する者でも、毛皮や動物への考え方や意識に大きな違いがある。

同じリアルファーといっても、命を大切にしたら結果作られたものと、命を軽んじた結果作られたものがある。

偏に毛皮全てが悪いとされることがあるが、正当な取り方をされたものであれば、むしろ動物を大切にしている事に繋がる。毛皮を選ぶか選ばないかは個人の自由であり、他人に強要することではないのである。

伝統的産業を次世代に
継承していかなければならない

1



毛皮はステイタスシンボルから、生活のなかで楽しむファッション衣料素材として、そして最近ではアクセサリ、バッグやインテリアなどその用途は多様性に富んでいます。

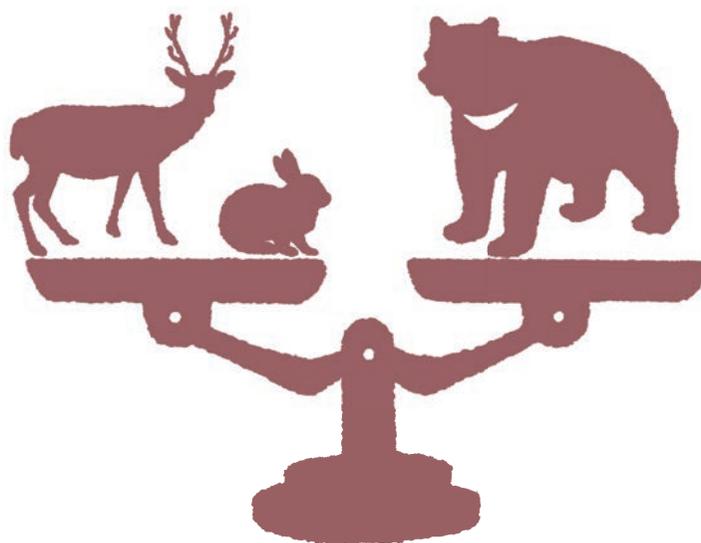
これは、天然の風合いや機能性、耐久性といった特性を、多くの人々が認めたからです。毛皮にたずさわる私たちは、伝統あるこの生活文化産業を「持続可能な利用」を守りつつ、誇りをもって後世に伝えていきたいと考えます。

JFA 一般社団法人日本毛皮協会 HP より引用
<http://www.fur.or.jp/eco/>

地球環境保全のため、生態系のバランスを保つ

(人間や畑を襲う害獣の間引きや、その有効活用)

2



野生動物の中には人間や家畜を襲うものもいます。地球上のすべての動植物は、食物連鎖の形でバランスを保っているため、ひとつの種が増えすぎれば、そのまわりにいるすべての種が多大な影響を受けることになります。

だからこそ、生態系のバランスを保つためには、人間の英知による管理（＝間引き）が必要です。そしてそれが、真の自然保護にもつながるのです。適正に捕獲された野生動物を、自然の恩恵として上手に活用すること、これが「自然資源の保持・持続可能な有効利用」といわれるものです。

JFA 一般社団法人日本毛皮協会 HP より引用

<http://www.fur.or.jp/eco/>

リアルファーは処分する際に自然に還るので、
フェイクファーよりも **エコロジカルである**

3



人類史上最古の服といわれる毛皮は、まさに自然が人類に与えてくれた贈り物です。保温性、耐久性に優れリメイクも可能で無駄なく活用でき、最後には土に還することができる天然素材です。

冬の寒さに対しては、毛皮を着用・使用することでエネルギー消費の削減にも役立ちます。持続可能な有効利用を実現することで、子孫に「きれいで豊かな地球」を残すことができると考えています。

JFA 一般社団法人日本毛皮協会 HP より引用
http://www.fur.or.jp/eco_qa/



毛皮反対派

The fur opponents.

リアルファーに対しての反対意見について

リアルファー反対を掲げている人々のほとんどが動物愛護団体や、ヴィーガンの方々である。こういった人々は、動物を愛しているが故に、毛皮を剥ぎ身に纏っていることは動物倫理に反していると主張し、激しく抗議することもある。

動物も人間と同じ生き物であり、アニマルウェルフェアといって

- 1、飢えや渇きからの自由
- 2、痛み、負傷、病気からの自由
- 3、恐怖や抑圧からの自由
- 4、不快からの自由
- 5、自然な行動をする自由 がある。

これを踏まえて、毛皮だけでなく家畜についても飼育環境などが見直されている。

また、動物愛護などの倫理的な観点や、科学技術の発達によるフェイクファーのクオリティ向上により、近年では高級ブランドの「ファーフリー宣言」が増えてきている。

例として「GUCCI」、「BURBERRY」、「Ralph Lauren」、「PRADA」、「COACH」など多数の有名ブランドがリアルファー商品を廃止している。

世界のファッションやトレンドを引っ張る有名ブランドがファーフリー宣言をしたことは、ファッション業界の流れだけでなく、世界の毛皮に対する意識を大きく変えるのではないかと。

毛皮農場から逃げ出した外来種が
生態系を破壊している

1

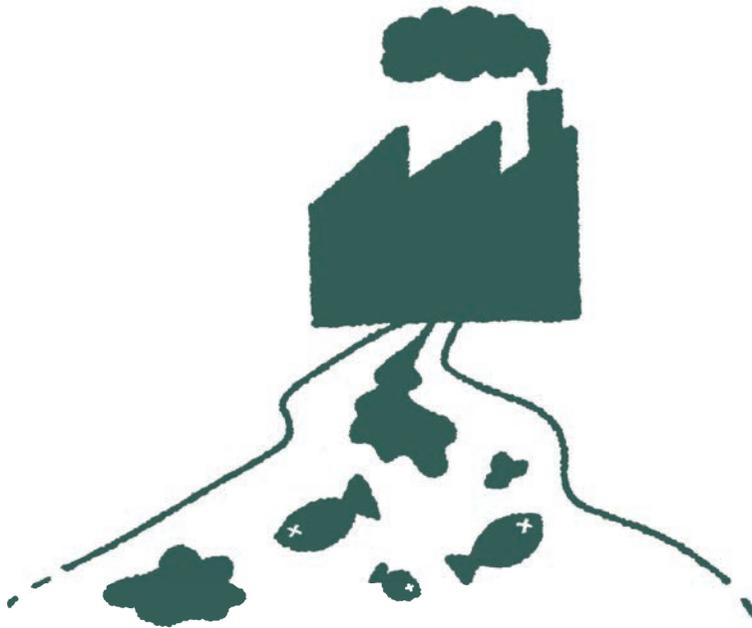


アメリカミンク（学名:Neovison vison）は北アメリカ固有の種であり、100年前に毛皮に利用するために輸入され、繁殖させられてきました。しかし業者のずさんな管理のために毛皮農場から脱走し、各地域の生態系に入り込み、帰化（定着）してきました。アメリカミンクだけでなく、ヌートリアも毛皮産業により日本各地に生息地を広げました。その殺処分の計画はアメリカミンクよりも多い162件。数千頭～数万頭の動物がただその種であると言うだけで殺されるという大量虐殺が起きているのです。

VIGAN FASHION HP より引用
<https://www.no-fur.org/ecosystem-destruction/>

毛皮産業でのなめし加工による公害により、
河川や土壌が**汚染されている**

2



毛皮は自然のままの製品ではなく化学製品、持続不可能な製品です。毛皮の飾りにはアレルギー、ホルモンアンバランス、ガンの原因となるホルムアルデヒドとエトレキシートが含まれています。

毛皮に使われる動物の飼料、糞尿からの排出が原因で、毛皮にかかわる温室効果ガス排出量は、ポリエステル約 28 倍にもなります。

JAVA 動物実験の廃止を求める会 HP より引用
<https://www.java-animal.org/fur/illustration/>

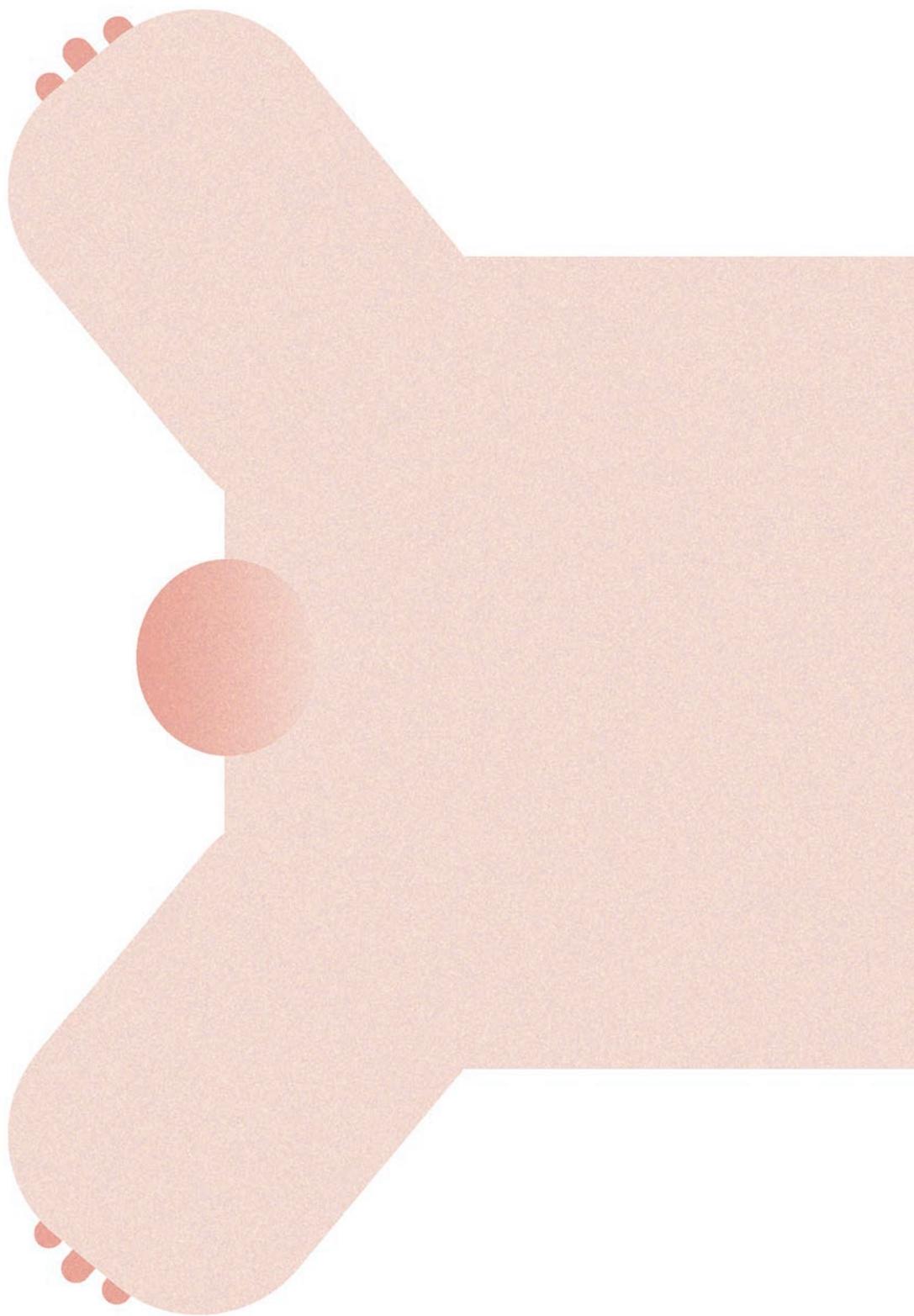
アニマルウェルフェアでない環境で大量生産し、
毛皮のためだけに殺すのは**人道的でない**

3



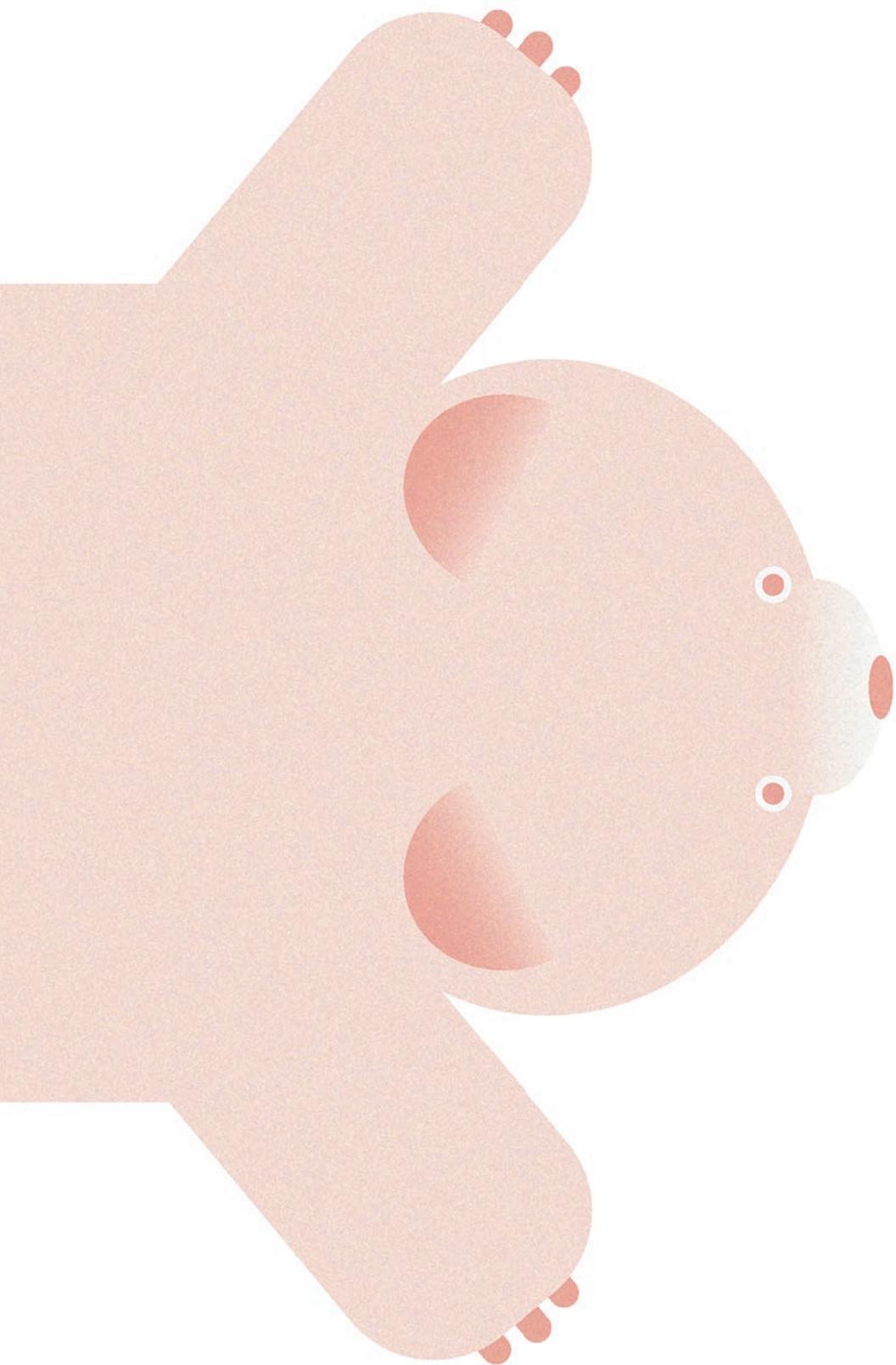
毛皮をとるために、ミンク、ウサギ、タヌキ、キツネ、チンチラといった動物たちが、狭く汚い檻に閉じ込められ、殺されています。動物たちは、ストレスや恐怖から精神に異常をきたし、同じ動作を絶え間なく繰り返したり、共食いしたりといった状態になってしまいます。最期は、窒息させる、首の骨を折る、口と肛門から電気を流す、など、毛皮を傷つけないようにするために、残酷な方法で殺され、短い生涯を閉じます。まだ意識がある状態で毛皮をはがされることもあるのです。

JAVA 動物実験の廃止を求める会 HP より引用
<https://www.java-animal.org/fur/>



03

毛皮動物図鑑



食肉目イタチ科ミンク属

ミンク

American mink



体長 50cm ~ 65cm

体重 0.7 ~ 1.0kg

分布 北アメリカ、欧州、ロシア、日本

毛皮について

刺し毛は強くしなやかで光沢に富んでおり、綿毛も密度が高くシルキーなため、衣料用として最高の特質を備えた素材と言える。耐久性に優れ、保温力もよい。染色も容易で、非常に多くの色を正確に表現することが可能。毛皮農場から脱走したミンクが外来種として生態系を破壊していることが問題となっている。

毛皮の使用例

コート、マフラー

齧歯目リス科リス属

キタリス

Sciurus vulgaris



体長 38cm ~ 47cm

体重 0.3 ~ 0.4kg

分布 欧州、ロシア、中央アジア、日本

毛皮について

毛は短く非常に軽くて柔らかい。軽い素材のため、コートの表地の他、ライナーにも活用されることが多い。グレードのよいものは毛が密で、鮮明なブルーグレーの背部に白色の腹部を持つ。小動物だが立派な尾を持ち、尾の毛はフェイスブラシなどの化粧用の筆に活用される。

毛皮の使用例

コート、マフラー、筆

ウサギ目ウサギ科

シロウサギ

White Rabbit



体長 40cm ~ 50cm **体重** 3.5 ~ 5.0kg

分布 南極大陸や一部の離島を除く世界中の陸地

毛皮について

特殊な種類として刺し毛が退化した綿毛だけのレッキス種がある。毛の一部が細くなっているため、折れたり切れたりし易い性質があるが、刈毛（シェアード）処理をすると、その欠点が解消される。ラビットは、耐久性はやや低い、染色が容易なことに加えて、比較的安価なため利用範囲は広い。

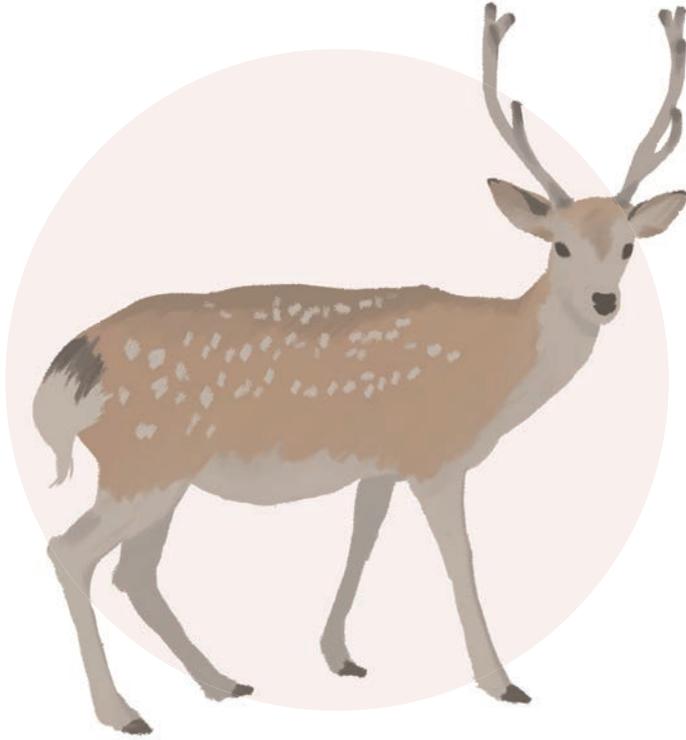
毛皮の使用例

バッグ、ブーツ、小物

偶蹄目シカ科シカ属

ニホンジカ

Cervus nippon



体長 90cm ~ 190cm 体重 25 ~ 200kg

分布 日本、中華人民共和国、ロシア

毛皮について

皮は適度に硬く、厚みがある。冬毛は灰褐色で防寒の役割を担う長い毛（ガードヘアー）が生えており、夏毛は明るいブラウンに白の斑点模様があって折れにくいのが特長。古来では、鹿の夏毛を身に着けることは中世の武士等のたしなみであり、特に騎馬遠行の必需品として鹿の夏皮を着用していたと言われる。

毛皮の使用例

カーペットやラグ、コート

食肉目クマ科クマ属

ヒグマ

Grizzly bear



体長 180cm ~ 300cm 体重 100 ~ 500kg

分布 北アメリカ、ヨーロッパ、アジア

毛皮について

クマの毛は子グマであってもゴワゴワしており、防寒用のコートなどには向いていないため、ミンクなどに比べると相場は安い。そのため、衣類よりはインテリアとして使用されるが、マタギなどが使う「尻当て」としては最高の素材として使われている。

毛皮の使用例

カーペットやラグ、インテリアや剥製

ネコ目ネコ科オオヤマネコ属

ボブキャット

B o b c a t



体長 60cm ~ 105cm **体重** 6 ~ 15kg

分布 アメリカ、カナダ、メキシコ

毛皮について

長毛の柔らかい毛は密でシルキー。背の部分は淡い褐色に暗褐色の斑点模様がある。腹部は白く、暗褐色が鮮明で美しいシルエットとなっており、大半の毛皮とは異なり、腹部の方がその美しさのために価値が高くて重用される。

毛皮の使用例

コート、ベスト

食肉目イヌ科キツネ属

キツネ

fox



体長 45cm ~ 90cm 体重 2.7 ~ 6.8kg

分布 北アメリカ、ユーラシア大陸、北アフリカ

毛皮について

一般的に、良質のものほど鮮明で赤味を帯びたオレンジ色をしており、等級の下のものほどくすんだ色をしている。良質なものは、刺し毛、綿毛共にシルキーで長く密度が高いが、中でも火のように赤い色をしたカムチャッカ産のものは、ファイヤーフォックスと呼ばれ、良質とされている。わずかだが養殖もされている。

毛皮の使用例

コート、マフラー、フード、帽子

食肉目イヌ科タヌキ属

タヌキ

Raccoon dog



体長 50cm ~ 80cm

体重 2 ~ 8.4kg

分布 日本、中国、朝鮮半島、ロシア、ヨーロッパ

毛皮について

背筋は黒く、褐色から灰褐色の長いシルキーな刺し毛と密生した深い綿毛を持つ。抜毛してシルキーで密度の高い綿毛だけで使われることもある。また、刺し毛は、筆毛としても活用される。

毛皮の使用例

コート、マフラー、フード、帽子、筆

「 FAR, FUR 」

発行日 2021年1月27日

著者

本文デザイン

松下 麗蘭

イラスト

写真